

ウイルス担当(平成21年度)

病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

(1) インフルエンザウイルス

平成21年5月から平成22年4月までの12カ月間に589件(鼻咽頭ぬぐい液513件、便49件、気管支吸引液1件、その他・不明26件)を検査し、AH1pdmウイルス283株が分離・検出された。5月、6月はインフルエンザ様疾患患者の全数調査と重なったため定点調査で捕捉できず、7月に入ってから初めてAH1pdmウイルスが分離された。その後、AH1pdmの単独流行となり、11月第46週をピークに10ヶ月間分離・検出が続いた。また、定点以外では平成22年3月第9週に小学校でB型と診断された集団発生を探知した。5名の患者のうがい液を検査したところ、Victoria TypeのB型が4株分離された。分離したAH1pdm株の抗原性状は、94%(231株中217株)がAH1pdmワクチン株であるA/California/07/2009とHI価が類似していた。一方、山形系統のB型4株は2009/2010シーズンのワクチン株B/Brisbane/60/2008とHI価で8倍の差があり、抗原変異が進んでいた。

全調査で分離したAH1pdmウイルス569株について、ノイラミニダーゼ阻害薬のオセルタミビルに対する耐性頻度を調べた。入院事例から分離した4株で耐性を示唆する塩基置換が見られ、国立感染症研究所の薬剤感受性試験でオセルタミビル耐性株であることが確認された。患者はいずれもオセルタミビル内服後であり、治療による選択と考えられ、出現頻度は0.7%であった。また、34株についてM2阻害薬のアマンタジンに対する耐性部位調べたところ、AH1pdmウイルスが最初から獲得しているアマンタジン耐性変異がみられた。

(2) アデノウイルス

春から夏に掛けて流行し7種32株分離検出された。19株は気道炎患者由来の検体から主にアデノウイルス3型と6型、10株は感染性胃腸炎患者からアデノウイルス2型と41型などが同定された。また、冬季にはインフルエンザウイルスAH1pdmとの重複感染が3例確認された。眼科定点の流行性角結膜炎患者由来の3検体からもアデノウイルス37型などが分離された。

(3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に13種44株が分離検出された。ポリオウイルス2型は、経口ポリオワクチン由来株であった。6人の手足口病患者からは、エンテロウイルス71(EV71)5株とコクサッキーウイルスA16(CA16)1株、このうちEV71が同定された1例はインフルエンザウイルスAH1pdmの重複感染であった。8人のヘルパンギーナ患者からは、主にCA2とCA10などが検出された。無菌性髄膜炎患者からはエコーウイルス18型、EV71が同定された。

(4) RSウイルス

冬から春に掛けて気道炎患者由来の検体から39株検出された。このうちインフルエンザウイルスAH1pdmとの重複感染が18株あった。

ウイルス性食中毒等の検査(平成21年度)

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例(感染症の事例も含む)に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成21年度の検査数は、233事例977件(患者716件、従業員197件、食品11件、ふきとり46件、その他7件)で、昨年度と比べて事例数(231事例)はほぼ同数であったが、検査数(1,426件)は減少した。

全233事例中の135事例(57.9%)はノロウイルス陽性、4事例はロタウイルス陽性、3事例はサポウイルス陽性であった。今年度のノロウイルスの遺伝子型は、G1型が19事例、G2型が111事例、G1とG2型の混在が5事例であった。例年同様にG2型が主流であることにはかわりないが、G1型およびG1とG2の混在事例も合計24事例あった。また、ロタウイルス感染症が高齢者施設で2事例、小学校で1事例、保育園で1事例発生した。サポウイルスについては平成21年4月から5月にかけて小学校で2事例、保育園で1事例発生した。

今年度のノロウイルス感染症による集団発生は79事例で、昨年度(86事例)よりやや減少した。その事例数の内訳は、高齢者施設20、保育園・幼稚園9、小学校39、中学校1、病院2、福祉施設6、その他2、の計79事例であり、依然として小学校での事例が多くを占めていた。

HIV検査(平成21年度)

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査(18:00～19:30)、結核予防会中央相談所での土曜検査(14:00～18:00)の3つがある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。また、平成17年5月からは、結核予防会中央相談所の土曜検査で、即日検査が選択できるようになった。さらに、平成20年5月から県予防医学協会での即日検査が第2と第4日曜日に行われるようになった。本年度の取扱件数は総数2,534件で、その内訳は、一般依頼検査:1,130件、夜間検査:959件、土曜検査:1,568件(通常検査:313件、即日検査:1255件)であった。その内、陽性12件(前年度10件)の内訳は、一般依頼検査:4件、夜間検査:2件、土曜検査:3件(通常検査:0件、即日検査:3件)、日曜検査での即日検査3件であった。さらに、夜間検査においては、任意希望で梅毒検査も受けられるようになっており、当所で926件の抗体検査を実施した。また、HIV検査等のイベントが行われ、その件数は129件であり、そのうち梅毒検査希望者は125件であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。本年度の検査件数は、患者数16名による16件であり、その内新患は14名であった。